

藁科地域小中一貫校整備事業計画概要書

令和 6 年 4 月

静岡市教育委員会

I 事業概要

1 事業名称

藁科地域小中一貫校整備事業

2 事業経緯及び概要

本市における学校の適正規模・適正配置は、平成24年10月に教育委員会からの諮問を受けた「静岡市立小学校及び中学校適正規模等審議会」から「静岡市立小学校及び中学校の適正規模・適正配置の基本的考え方及び具体的方策」について答申がなされた。その後、より一層少子化が進むと見込まれる中で、平成28年2月に「静岡型小中一貫教育推進方針」が策定されたことを受け、学校の適正規模・適正配置の取組を加速するための基本的な考え方や取組の進め方等を示す方針として平成28年9月に「静岡市立小・中学校適正規模・適正配置方針」を策定した。

令和4年4月には「静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針改定検討会」を設置し、従来の基準に加え、適正規模・適正配置に取り組む対象となる学校の優先度など整理した「静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針（改定）版」を策定した。

児童生徒数の減少が著しい葵区山間地においては、令和3年度には清沢地区から清沢小学校と中藁科小学校との統合の要望書が提出されるとともに、令和4年9月に、中藁科・清沢地区より、中藁科小学校、水見色小学校、清沢小学校3校と藁科中学校の再編に関する要望書が提出されている。

これらの経緯をふまえ、本事業は、中藁科小学校、水見色小学校、清沢小学校3校と藁科中学校を対象とした施設一体型の藁科地域小中一貫校を整備し、開校を目指すものである。

3 事業内容

藁科地域小中一貫校校舎等の設計業務及び建設工事

4 事業予定地

静岡市葵区大原1398-1（「案内図」（別紙1）参照）

5 整備方針

藁科地域小中一貫校整備事業では、藁科地域の風土や周辺環境との調和を図り、児童生徒をはじめ、地域住民が木のぬくもりを感じられ、長きに渡り愛着を持てるよう、地域材であるオクシズ材を活用した木造の校舎を整備する。オクシズ材を活用することで、単なる学校施設の整備だけでなく、持続可能な地域づくりへの有効性を高め、また、環境教育の場としての活用や、地域住民にとって象徴的な施設となることを目指している。

また、9年間を見通した教育を提供するために、

- ・インターネットによる遠隔地との共同学習などICT等を活用した学習環境の提供
- ・オクシズ材を活用することで、地球温暖化対策や木材の利用促進に寄与する施設を整

備し、森林資源の循環など環境や地域経済について学ぶことができる学習環境を提供
・地域の「ひと・こと・もの」を探究的に学び、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育成する「わらしな学」

など、特色ある学びを実現し魅力的な学校づくりを行う。すべての子どもたちの可能性を引き出す、個人の能力や興味に合わせて課題を選択する「個別最適な学び」と、異学年での共同学習や地域・専門家との学習活動を行う「協働的な学び」の一体的な推進に向けた教室環境・教室周辺の空間環境の整備に特に配慮し、ライフサイクルコストを考慮して、長く使い続けることが出来る学校施設の整備を目指す。

6 事業スケジュール

令和6～7年度 藁科地域小中一貫校校舎等の基本設計・実施設計

令和8～9年度 藁科地域小中一貫校校舎等の建設工事・改修工事

令和10年4月 供用開始

令和10年度 解体工事・外構工事

II 設計条件

1 敷地概要

- ・敷地面積：約18,816㎡（現況：建物敷地 保有7,633㎡、運動場 保有11,183㎡）
- ・法規制 区域区分：市街化調整区域
- ・防火地域：防火地域の指定無し
- ・建ぺい率：60%、容積率：200%
- ・道路斜線： $\angle 1.5$ 、隣地斜線：31m+ $\angle 2.5$
- ・高度地区：指定無し
- ・日影規制：制限建築物 高さが10mを超える建築物
地盤面からの高さ4.0m、10m以内の日影規制4.0h10m超の日影規制2.5h
- ・屋外広告物特別規制地域（施設）：静岡市立藁科中学校 第2種特別規制地域

【関係法令】

建築基準法及び同法施行令

都市計画法及び同法施行令

消防法及び同法施行令

電気事業法

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 建築物移動等円滑化基準
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律

浄化槽法

静岡県福祉のまちづくり条例

静岡県建築基準条例

静岡県建築構造設計指針・同解説

その他関係法令

2 インフラの状況

- ・道路 市道 大原横崎線 幅員6.3m～7.0m
市道 大原只間線 幅員7.0m～8.0m
- ・給水 井戸 敷地北西角に既設井戸ポンプ有り
- ・排水 既設浄化槽320人槽
- ・雨水排水 農業集落排水
- ・ガス プロパンガス
- ・電気 市道大原只間線から敷地内の引込柱にて引込
- ・電話 市道大原只間線から敷地内の引込柱にて引込

Ⅲ 敷地利用計画

1 出入口

- ・既設正門は、既設屋内運動場の北側の市道大原横崎線に位置している。既設正門は駐車場の出入口とする。
- ・児童・生徒の通学のための新正門は、新校舎の配置と動線により、適切な位置に設置する。

2 敷地内動線

- ・敷地内は、可能な限り歩行者動線及び車両動線を分離する。
- ・屋外施設として駐輪場、平面駐車場及びこれらからの敷地内通路を計画する。

3 駐車スペース

- ・駐車場は55台を計画する。（教職員用、来客用を含む）
- ・敷地内には大型バス等の進入も考慮する。
- ・中学生の自転車通学のため、自転車駐輪場は20台を計画する。

Ⅳ 建築条件

1 建物構造及び規模

- ・校舎の構造：木造（原則、無垢材を使用）（一部 混構造は可）地上2階建て
延床面積：3,850㎡程度
- ・構造計算における地震力の割増は、「静岡県建築構造設計指針・同解説」における地域係数1.2、用途係数1.25を採用する。

2 配置計画

- ・周辺環境に調和した校舎とすること。
- ・小中一貫校としての学校生活や学校運営に配慮した配置計画とすること。（「施設の配置図」（別紙2）参照）

3 動線計画

- ・車両動線は西側の道路、市道大原横崎線から出入りすることを基本とする。駐車場から校舎までの動線を計画すること。

4 平面計画

- ・児童・生徒の学校生活を始め、一部の施設は地域住民も利用する予定であり、災害時では避難所としての利用に対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した計画とする。
- ・「機能構成等」（別紙3）、「諸室一覧（新校舎）」（別紙4）に基づき、平面計画を行う。なお、機能上必要と考えられる諸室は適宜追加するものとする。

5 設備設計

- ・施設整備費、維持管理費、光熱水費、設備更新費等を総合的に検討し、全体としてライフサイクルコストを削減するように配慮すること。
- ・空調用屋外機を設ける場合には、周辺環境や景観に配慮すること。

6 景観計画

- ・外構計画は、学校としての温かみを意識したデザインとなるよう留意すること。
- ・建築設備や屋外階段は、建築物と一体的なデザインとする。植栽や校舎の外壁と調和した色彩のルーバー等による修景を行う。
- ・設計にあたっては、静岡市景観アドバイザーに意見を求めること。

7 その他

- ・新校舎は、環境負荷等の低減を配慮し、ZEB Ready以上に適合した建築物とする。
なお、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、将来 ZEB に対応できる施設とすること。

V 提供資料

以下の計画内容を踏まえて検討を行うこと。

- ・第4次静岡市総合計画
- ・第3期静岡市教育振興基本計画
- ・静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針（改定）版
- ・R5 藁科中グループ校小中一貫構想図
- ・学校施設整備指針（文部科学省 令和4年6月改訂）

VI 目標建設費

- ・目標建設費は 2,571,000千円（既存校舎解体工事費173,000千円・外構工事費及び消費税を含む）以下とする。

VII その他

1 校舎設計以外の業務

- ・既設校舎等解体設計

(校舎)

構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 4 階 延床面積2,448㎡

(プール)

構造規模：鉄筋コンクリート造平屋 築造面積911㎡

- ・既設体育器具庫・部室解体、新設設計

(体育器具庫)

構造規模：鉄骨造平屋 延床面積61㎡

(部室)

構造規模：鉄骨造平屋 延床面積63㎡

- ・既設体育館改修設計

(体育館)

構造規模：鉄筋コンクリート造 2 階 延床面積698㎡

2 付属施設等

- ・渡り廊下（新築校舎と既設体育館等との接続）
- ・駐輪場（自転車20台程度）
- ・平面駐車場（一般車両55台、大型バス1台停車スペース）
- ・敷地内通路（駐輪場・駐車場からの歩行者通路等）

3 地盤の状況

- ・土質ボーリング調査実施箇所では、GL-12.0m以深は良好なシルト混じり砂礫層（N値50 以上）が2m程度存在する。
- ・昭和48・49年度、平成3年度、令和5年度の「土質ボーリング柱状図」（別紙5）を参照のこと。
- ・建物配置計画により、必要に応じて追加土質ボーリング調査を、本業務内で実施する。（深さ20m以上、建設予定地内で2箇所以上とする。）

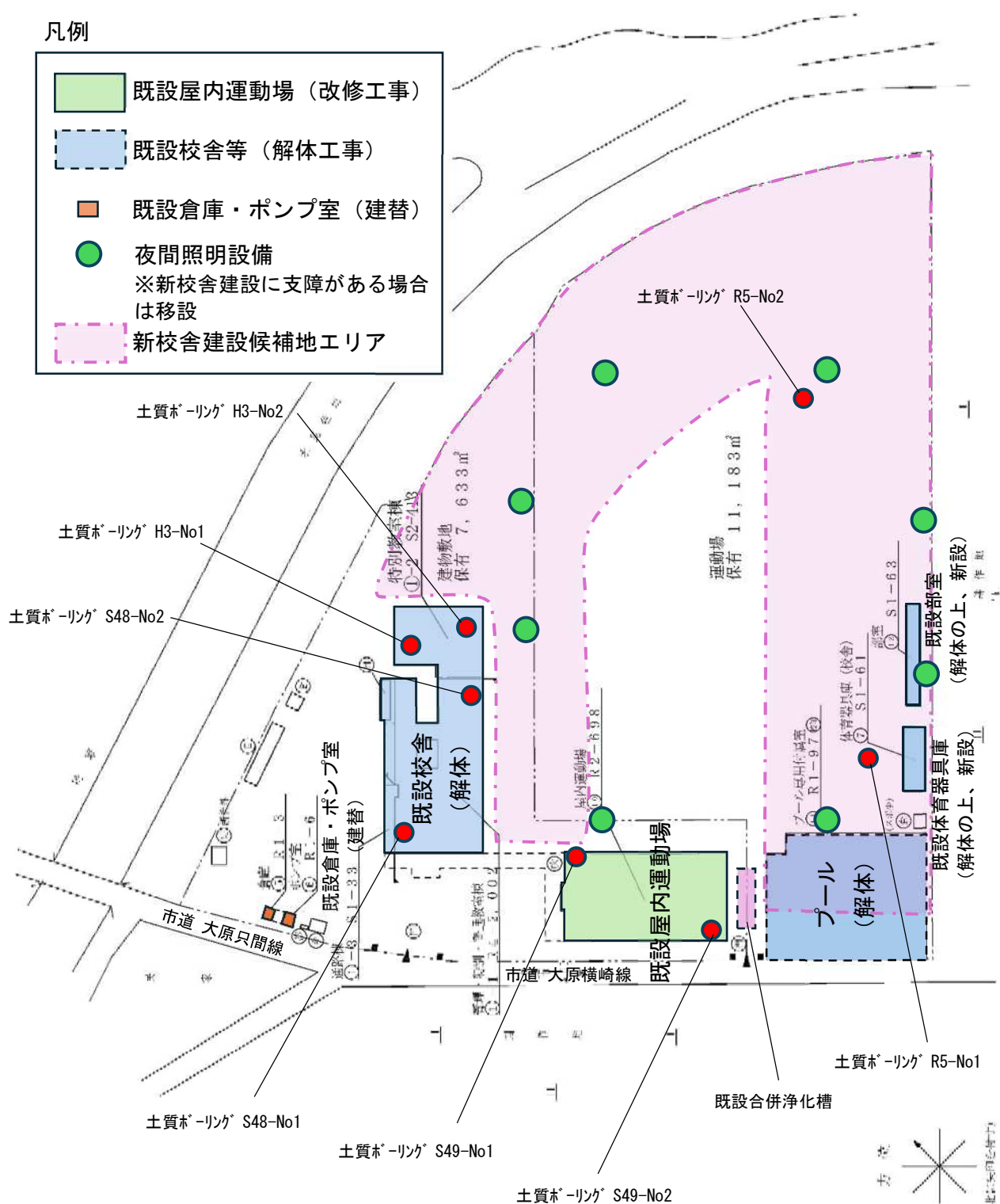
別紙 1 案内図



別紙 2 施設の配置図

凡例

- 既設屋内運動場（改修工事）
- 既設校舎等（解体工事）
- 既設倉庫・ポンプ室（建替）
- 夜間照明設備
※新校舎建設に支障がある場合は移設
- 新校舎建設候補地エリア



別紙 3 機能構成等

機能（施設）	特記事項
新校舎	・ 既設校舎を使用しながらの建設のため、学習活動への影響を考慮する。 ・ 新校舎の構造・階数は、木造（原則、無垢材を使用）（一部 混構造は可）2 階建てとする。（木材利用目標値：0.2 m³/m²） ・ 階高は 3.5m 程度、天井高は 2.7m 程度を想定している。 ・ 外装材の木材使用には、メンテナンスに配慮する。
既設屋内運動場	・ 小中一貫校整備に合わせて既設屋内運動場のリニューアル改修を実施する。改修内容は小学生の利用対応、屋根・外壁改修を行う。 ・ 耐震診断実施済み（平成 14 年）結果：耐震性あり
既設プール	・ 既設プールは、新校舎建設工事までに解体する。
渡り廊下	・ 新校舎と既設屋内運動場を繋ぐ渡り廊下を整備する。
グラウンド	・ 新校舎建設場所以外の既設芝グラウンドは維持保全する。 ・ グラウンド内にサッカーコート（45m×90m 程度）を確保する。 ・ テニスコートは、1 面以上確保する。
駐車場	・ 敷地北側に駐車場を配置する。 ・ 駐車場の出入口は、現在の正門とする。
その他	・ 小学生用の遊具広場を計画する。 ・ 既設の部室、体育器具庫は、解体・新設する。ただし、新設する部室・体育器具庫の規模は縮小（既存の半分程度）する。 ・ 敷地北側の既設倉庫及びポンプ室は、建替える。 ・ 正門にある記念碑、正門横のケヤキ 2 本、50 周年植樹は保全する。

別紙４ 諸室一覧（新校舎）

※別紙４における表中の面積は、1室当りの想定面積（目安）であり、設計プロポーザルの提案内容によってはこの限りではない。

教室	部屋数	面積（㎡）	特記事項
普通教室	9	56	・校舎の南側に普通教室を配置し、陽当たりを確保する。 ・1室56㎡程度（奥行7m×間口8m程度）とする。 ・小学1年から中学3年まで各1教室とする。 ・児童・生徒が使用する机は新JIS規格とし、1教室20名程度を想定する。
特別支援教室	1	112	・校舎の南側に特別支援教室を配置し、陽当たりを確保する。 ・利用区画が分割できるように可動間仕切りを計画する。 ・水道、ガスなど生活実習に必要な設備を設ける。 ・通常学級との交流などの対応に配慮した配置を検討する。

特別教室	部屋数	面積（㎡）	特記事項
共通事項	—	—	・特別教室は室の共有や特別教室ゾーンとして計画するなど、効率的な施設利用となるよう検討し、利用する学年や利用形態に応じ、普通教室から移動しやすい位置に配置する。 ・実験の準備、資料等の作成、教材・教具等の保管等の場として特別教室に隣接する準備室を整備する。 ・教科内容に応じ、屋外と容易に連携することのできる配置とする。 ・学習活動に伴い騒音、振動、臭気等を発生する教室は、他の空間に過度の影響を与えないよう配置する。
技術科室	1	64	・技術科室は、作業室の仕様とする。 ・作品展示スペース、作品の保存スペースを設ける。 ・工作機械等の騒音、振動、ほこり等が、他の教室等に影響のないように配慮する。
技術科準備室	1	32	・技術科室（木工・金工）には準備室を設ける。
家庭科室	1	64	・食物と衣服との作業を行うため、調理台、作業台、示範台等を配置し、仕様を検討する。洗濯機、冷蔵

			庫等の配置にも配慮する。 ・十分な換気を確保する。
家庭科準備室	1	32	・家庭科室には準備室を設ける。
理科室	2	64	・直射日光の得られる屋外作業空間（屋外テラス等）との連続性に配慮する。 ・模型、標本などの教材や資料の展示、掲示板による情報の提供を行う。 ・学習環境に必要な設備を設けるとともに、十分な換気を確保する。
理科準備室	1	32	・準備室は2室での兼用とする。
美術室	1	64	・室内におけるデッサン、絵画制作等のため、北側採光に配慮する。 ・教材用美術品の展示や教科関連の掲示できるように配慮する。 ・生徒の作品展示スペース、作品の保存スペースを設ける。
美術準備室	1	32	・準備室を設ける。
音楽室	2	64	・他の教室への音の影響に配慮する。 ・楽器に直接日光が当たらないように配慮する。
音楽準備室	1	32	・準備室は2室での兼用とする。
図書室・情報センター・自習室	1	160	・情報の蓄積と発信が出来るICT化への対応を図る。 ・休み時間等に児童・生徒が落ち着くことができ、他学年と交流できる空間とする。 ・図書室・情報センターと自習室との利用区画が分割できるように可動間仕切りを計画する。 ・蔵書数は12,760冊を予定している。（小学校6,040冊、中学校6,720冊）
生徒児童会室	1	32	・校庭の見通しができる位置に計画する。
多目的室	1	112	・多目的室を1階に配置し、地域交流を活かした教育の場として利用する。 ・利用区画が分割できるように可動間仕切りを計画する。

管理諸室	部屋数	面積 (㎡)	特記事項
職員室等	1	184	・小中共用の職員室とする。 ・他の管理諸室との連携を図りやすい位置とする。 ・グラウンド等への見通しに配慮するとともに、来校者などが認識できる位置に計画する。 ・将来の教職員数等の変化に対応できるように配慮する。 ・職員用の収納スペースを確保する。 ・印刷スペースでは、教材の作成等も行えるように計画する。 ・給湯流しなどの設備を計画する。
校長室	1		・小中共用の校長室とする。 ・玄関から連絡のよい位置に計画する。 ・応接できる室内空間・仕様とし、各種資料などを保管する棚を設ける。
応接室	1		・玄関から連絡のよい位置に計画する。 ・応接できる室内空間・仕様とする。
保健室	1	56	・管理諸室との連携の良い位置に計画する。 ・救急車等の緊急車両が寄りつけることが出来る位置に配置する。 ・保健室登校の生徒がいる場合を想定し、保健室内に小部屋を計画する。 ・シャワー室、給湯設備、洗濯スペースを設ける。
事務室等	1	72	・事務室を昇降口付近に計画する。
会議室・相談室	2	48	・職員の会議や児童・生徒との相談室に利用できる空間とする。
更衣室	2	16	・職員用とする。 ・プライバシー、防犯に配慮する。
用務員室	1	32	・屋外との動線や施設管理に配慮した位置に計画する。

地域交流	部屋数	面積 (㎡)	特記事項
地域交流室	1	56	・外部からの利用が可能な区画とする。 ・児童・生徒と地域住民が一緒に取り組む地域学習や地域住民への開放を想定している。

児童クラブ室	部屋数	面積（㎡）	特記事項
児童クラブ室	1	50	・定員は 20 名程度を想定する。 ・流し台・手洗い（蛇口 2 口）・ランドセルロッカー（定員分）を設ける。 ・事務スペース・書棚等の設置スペースを設ける。 ・外部からの利用が可能な区画とする。 ・放課後や長期休暇等に児童を預かり育成することを目的として利用する。

共用部	部屋数	面積（㎡）	特記事項
昇降口	1	48	・短時間に全校生徒が出入りする動線と校舎・屋外運動場の関係に配慮する。 ・来客・職員用玄関は別に計画する。 ・地域住民も利用しやすい位置としつつ、防犯・セキュリティに配慮する。
更衣室	2	16	・児童・生徒用とする。 ・プライバシー、防犯に配慮する。
給食受領室	1	32	・給食はセンター方式とする。 ・新校舎の 1 階に給食受領室を設け、屋外には給食センターからの配送車両の駐車スペースを計画する。 ・給食受領室内には、小荷物昇降機を計画する。
配膳室	1	32	・配膳室には小荷物昇降機を計画する。
トイレ	—	適宜	・トイレは乾式とする。 ・トイレ内の照明や手洗い水栓は、人感センサーを設ける。 ・大便器は全て洋式便器とする。児童・生徒用の洋式便器にはシャワートイレは設置しない。小便器は自動洗浄機能付きとする。 ・多目的トイレを各階に 1 か所設置する。 ・LGBTQ・ジェンダー対応を検討する。
階段	—	適宜	・階段の位置は、児童・生徒が校舎を移動する場合の動線に配慮する。 ・児童・生徒の安全を確保するため、十分な幅員や手すりの形状などに配慮する。
スロープ	—	適宜	・スロープを校舎の昇降口付近に配置し、上下階の移動をスムーズに誘導する。 ・階段とスロープは、直通階段（建築基準法施行令第 120 条）及び 2 方向避難（同施行令第 121 条）とし

			て想定している。 ・スロープ勾配は、1/15 以下とし、可能な場合は 1/20 を検討する。 ・新校舎内にはエレベーターは設置しない。
廊下	—	適宜	・普通教室と広めに設定した廊下の一部を利用した活動も考慮する。 ・利用区画が分割できるように可動間仕切りを計画する。地域開放での利用時や、将来、用途転用した場合の対応（可変性）に配慮する。
庇（歩廊）	—	適宜	・木の温もりが感じられる外装と校舎昇降口へのアプローチ空間とする。
ベランダ	—	適宜	・校舎 2 階の南面には、1 階の庇も兼ねたベランダを計画する。

別紙5 「土質ボーリング柱状図」

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 令和5年度 教施工安第2号 蕨科小中一貫校校舎建設工事地質調査業務委託

事業名 または 工事名 蕨科小中一貫校校舎建設工事

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	R5-No.1	調査位置	静岡県静岡市葵区大原地内				北緯	35° 00' 30.60"		
発注機関	静岡市教育委員会事務局 教育局 教育施設課				調査期間	令和6年 2月 19日 ~ 令和6年 2月 22日		東経	138° 16' 56.20"	
孔口標高	KBM -0.50m	角		方位		地盤勾配		使用機種	YBM-05	
総削孔長	20.29m	度	0°				エンジン	NFD-10	ポンプ	V5-P

標尺	標高	深度	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代名	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験	試料採取	室内位置試験	削孔月日		
(m)	(m)	(m)								事		深度-N値図	採取番号	試験方法			
												N	深				
												100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量		
												0 100 200 300	100 200 300				
1	-1.75	1.25	盛土	砂質粘土	砂質粘土	暗灰色	rd2			0.10mまでシルト質砂。 0.10m以下、φ20~最大φ50mm程度の面内礫、面外礫を主体とする粘土質砂礫。所々、粘土土塊を挟む。含水高。中位。	20/22 3.15	1.15	2	2	6		
2	-2.25	1.75	砂質粘土	シルト混じり砂礫	シルト混じり砂礫	暗灰色	rd3			上層部はφ2~10mm程度の面内礫を少量混入。粘性高。中位。	20/22 4.00	1.45	3	4	11	2.15	
3										φ2~10mmの面内礫、面外礫、面外礫を主体。所々、φ100mm程度の玉石点。礫は砂質、粘質。マトリックスは細砂~中砂を主体とし、シルトを混入。	20/22 4.00	2.45	7	7	28	4.15	
4										3.40~3.80m、φ150~200mm程度と推定される玉石混入。礫中の孔状構造や泡が目立つ。含水高。中位。	20/22 4.00	3.45	12	11	37	4.15	
5	-5.20	4.75	砂質粘土	シルト混じり砂礫	シルト混じり砂礫	暗灰色	rd2			上位層に比べ礫の混入少なく、細砂~中砂を主体。	20/22 4.00	4.45	3	2	1	6	4.15
6	-5.85	5.35	砂質粘土	シルト混じり砂礫	シルト混じり砂礫	暗灰色	rd1			細砂~微細砂を主体。所々、シルト質砂、含水高。中位。	20/22 4.00	5.15	6	1	1	6	4.15
7	-7.40	6.90	砂質粘土	シルト混じり砂礫	シルト混じり砂礫	暗灰色	rd1				20/22 4.00	6.15	12	12	9	34	4.15
8											20/22 4.00	7.15	13	12	15	39	4.15
9											20/22 4.00	8.15	24	20	60	208	4.15
10											20/22 4.00	9.15	13	16	14	43	4.15
11											20/22 4.00	10.15	20	14	14	48	4.15
12											20/22 4.00	11.15	18	28	13	60	4.15
13											20/22 4.00	12.15	18	42	60	117	4.15
14											20/22 4.00	13.15	19	14	14	47	4.15
15											20/22 4.00	14.15	18	19	23	60	4.15
16											20/22 4.00	15.15	11	10	14	35	4.15
17											20/22 4.00	16.15	12	16	15	42	4.15
18											20/22 4.00	17.15	42	18	20	60	4.15
19	-19.30	15.50	砂質粘土	玉石混じり砂礫	玉石混じり砂礫	暗灰色	rd5			18.80~19.40m、φ80~150mm程度と推定される玉石を多く混入。最大φ100mm程度と推定。マトリックスは細砂~中砂を主体。含水高。中位。	20/22 4.00	18.15	17	22	21	60	4.15
20	-20.79	20.29	砂質粘土	玉石混じり砂礫	玉石混じり砂礫	暗灰色	rd5				20/22 4.00	19.15	20	20	40	240	4.15

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 令和5年度 教施工委第2号 蕨科小中一貫校校舎建設工事地質調査業務委託

事業名 または 工事名 蕨科小中一貫校校舎建設工事

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	R5-No.2	調査位置	静岡県静岡市葵区大原地内	北緯	35° 00' 31.90"
発注機関	静岡市教育委員会事務局 教育局 教育施設課	調査期間	令和6年 2月 23日 ~ 令和6年 2月 28日	東経	138° 16' 58.50"
孔口標高	KBM -0.45m	角	180° 上下 0°	方位	北 0° 270° 90° 180° 東
総削孔長	20.39m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試験機 YBM-05 エンジン NFD-10 ポンプ V5-P

標尺	標高	深度	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代名	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験	試験採取	室内位置試験	削孔月日							
(m)	(m)	(m)								事		深度-N値図	深	採取番号	試験方法							
1	-1.70	1.25		盛土		暗灰	rd2			0.15mまでシルト混じり砂。 0.15m以下、φ20~最大φ150mm程度の角礫を混入する粗上砂質砂。 含水高。	20/23 14	4	3.15	2	1	4	300					
2	-3.25	2.80		硬固じりシルト		暗灰	rd2			φ2~最大φ50mm程度の角礫、角礫を少量混入。 1.25~1.70m、所々、砂分の混入やや多く、部分的に砂質シルト状を呈す。 粘性高。	20/23 14	4	2.15	1	2	1	4	300				
3	-5.15	4.70		シルト混じり砂		暗灰	rd3			φ2~40mmの円礫、重円礫、近角礫を主体。最大φ80mm程度と推定。 礫は砂分、粘り。 マトリックスは粗砂~中砂を主体とし、シルトを混入。 全体にシルトの混入多く、所々、硬固じりシルト質砂状を呈す。 含水高。	20/23 14	15	3.15	5	5	5	15	300	2-3	○	無効分	
4	-5.90	5.35		硬固じりシルト		暗灰	rd2			全体にφ2~30mmの角礫、角礫を混入。 含水高。	20/23 14	33	4.15	13	9	11	33	300	2-4	○	無効分	
5	-7.35	6.90		シルト質砂		暗灰	rd2			φ2~最大φ40mmの円礫、重円礫を主体。 マトリックスは粗砂~中砂を主体。全体にシルトの混入多く、所々、硬固じりシルト質砂状を呈す。 含水高。	20/23 14	6	6.15	1	1	1	6	300	2-5	○	無効分	
6	-10.45	10.00		シルト混じり砂		暗灰	rd3			φ2~50mmの重円礫、重角礫を主体。 礫は砂分、粘り。 マトリックスは粗砂~中砂を主体とし、シルトを混入。 7.50~8.70m、φ50~80mm程度の礫の混入多く、最大φ200mm程度の礫と推定。 硬固中の含水高。 含水高。	20/23 14	5	6.15	3	1	1	6	300	2-6	○	無効分	
7	-11.60	11.15		シルト質砂		暗灰	rd3			φ2~50mmの重円礫、重角礫を主体。 礫は砂分、粘り。 マトリックスは粗砂~中砂を主体とし、シルトを混入。 7.50~8.70m、φ50~80mm程度の礫の混入多く、最大φ200mm程度の礫と推定。 硬固中の含水高。 含水高。	20/23 14	19	7.15	7	6	6	19	300	2-7	○	無効分	
8	-11.80	11.35		硬固じりシルト		暗灰	rd3			全体にφ2~30mmの角礫、角礫を混入。 含水高。	20/23 14	21	8.15	9	3	7	21	300	2-8	○	無効分	
9	-12.40	12.00		シルト混じり砂		暗灰	rd3			10.00m以下、全体にシルトの混入多く、シルト質砂。	20/23 14	42	8.15	13	15	14	42	300	2-9	○	無効分	
10	-13.80	13.35		シルト混じり砂		暗灰	rd3			厚層0.20mでシルト層を挟み、全体にφ5~最大φ30mmの円礫を混入。 粘性高。	20/23 14	15	10.15	4	6	5	15	300	2-10	○	無効分	
11	-14.40	14.00		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	18	11.15	2	3	13	18	300	2-11	○	無効分	
12	-15.00	14.60		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	40	12.15	16	12	12	40	300	2-12	○	無効分	
13	-15.60	15.20		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	106	13.15	18	42	60	106	142				
14	-16.20	15.80		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	31	14.15	10	10	11	31	300	2-14	○	無効分	
15	-16.80	16.40		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	37	15.15	12	12	13	37	300	2-15	○	無効分	
16	-17.40	17.00		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	67	16.15	11	15	24	60	270	223			
17	-18.00	17.60		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	54	17.15	15	18	21	51	300	278			
18	-18.60	18.20		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	38	18.15	11	12	15	38	300				
19	-19.20	18.80		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	86	19.15	21	38	7	60	175				
20	-20.84	20.39		シルト混じり砂		暗灰	rd3				20/23 14	75	20.15	21	23	16	60	300				

ボーリング柱状図

調査名 平成3年度 委託1第11号 豊科中学校地質調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B-No. 1	調査位置	静岡市大塚地内	北緯	—
発注機関	静岡市役所	調査期間	平成 3 年 7 月 3 日 ~ 3 年 7 月 9 日	東経	—
調査業者名	主任技師	現場代理人	コ ア 鑑定者	ボーリング責任者	—
孔口標高	-0.33m	角	方	北緯	—
総掘進長	20.43m	度	度	度	—
試験機	KR-100H	エンジン	NS 900	ポンプ	V. 6-S

標高	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記	標準貫入試験	原位置試験	採取	掘進
尺	高	厚	区	調	密	稠	事	N 値	深	深	月
(m)	(m)	(m)	分	度	度	度	事	度	度	度	日
1	-1.33	1.00	1.00	シルト	黄褐色	細砂	黄褐色を主体とするシルト層の砂質層よりなる。	1.15	1	1	1
2	-2.33	1.00	2.00	シルト	黄褐色	細砂	白砂土層と表現される軟弱シルトであり、高含水にて軟弱。	1.45	1	1	2
3				シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	2.45	4	3	2
4				シルト	黄褐色	細砂	全体にシルト分の混入あり、全体にやややわらかい状態に認められた。砂質部にシルトの混入の状況あり。	3.15	4	3	2
5	-5.33	3.00	5.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	4.15	5	4	3
6	-8.33	3.00	8.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	4.45	2	3	4
7	-11.33	3.00	11.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	5.15	1	3	5
8	-14.33	3.00	14.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	6.15	1	3	5
9	-17.33	3.00	17.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	7.15	1	3	5
10	-20.33	3.00	20.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	8.15	1	3	5
11	-23.33	3.00	23.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	9.15	1	3	5
12	-26.33	3.00	26.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	10.15	1	3	5
13	-29.33	3.00	29.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	11.15	1	3	5
14	-32.33	3.00	32.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	12.15	1	3	5
15	-35.33	3.00	35.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	13.15	1	3	5
16	-38.33	3.00	38.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	14.15	1	3	5
17	-41.33	3.00	41.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	15.15	1	3	5
18	-44.33	3.00	44.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	16.15	1	3	5
19	-47.33	3.00	47.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	17.15	1	3	5
20	-50.33	3.00	50.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	18.15	1	3	5
21	-53.33	3.00	53.00	シルト	黄褐色	細砂	砂質土層の硬角一層を主体とした砂質層であり、砂質は50mm以下が主体にあられる。	19.15	1	3	5

ボーリング柱状図

調 査 名 平成3年度 委託1第11号園科中学校地質調査業務

[illegible]

事業・工事名

ボーリング名	B - No. 2		調査位置	静岡市大塚地内				北緯	———
発注機関	静岡市役所			調査期間	平成 3 年 7 月 9 日 ~ 3 年 7 月 12 日			東経	———
調査業者名	主任技師			代理人	コ ア 鑑定者		ボーリング責任者	———	
孔口標高	-0.25m	角	180°	方	北	試錐機	K R - 100 H	ハンマー落下用具	コーンブーリー
総掘進量	21.6m	度	下	向	北	エンジン	N S 90 C	ポンプ	V. 6 - S

標尺	層高	厚	深	柱状	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験	原位置試験	採取		進月	日
												試験名	試験番号		
尺	高	厚	度	図	分	調	度	度	事	N 値	深	試験名	試験番号		
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)	および結果	(m)		
1	1.30	1.00	1.50		シルト	灰色	中	1	シルト層よりなる硬質粘土層。よく締まっている。	115	1.15	2-1	100		9
2	2.45	1.10	2.10		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-2	100		
3					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-3	100		
4	4.15	1.70	3.00		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-4	100		
5	5.45	2.50	5.10		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-5	100		
6	6.45	2.50	6.10		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-6	100		
7					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-7	100		
8					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-8	100		
9	9.45	3.00	9.10		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-9	100		
10	10.45	3.00	10.10		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-10	100		
11					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-11	100		
12					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-12	100		
13					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-13	100		
14					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-14	100		
15					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-15	100		
16					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-16	100		
17					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-17	100		
18					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-18	100		
19					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-19	100		
20	20.25	11.10	21.40		シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-20	100		
21					シルト	灰色	中	1	硬質粘土層の上部であり、含水率に比べて硬質である。	115	1.15	2-21	100		

土質柱状図

報告用紙

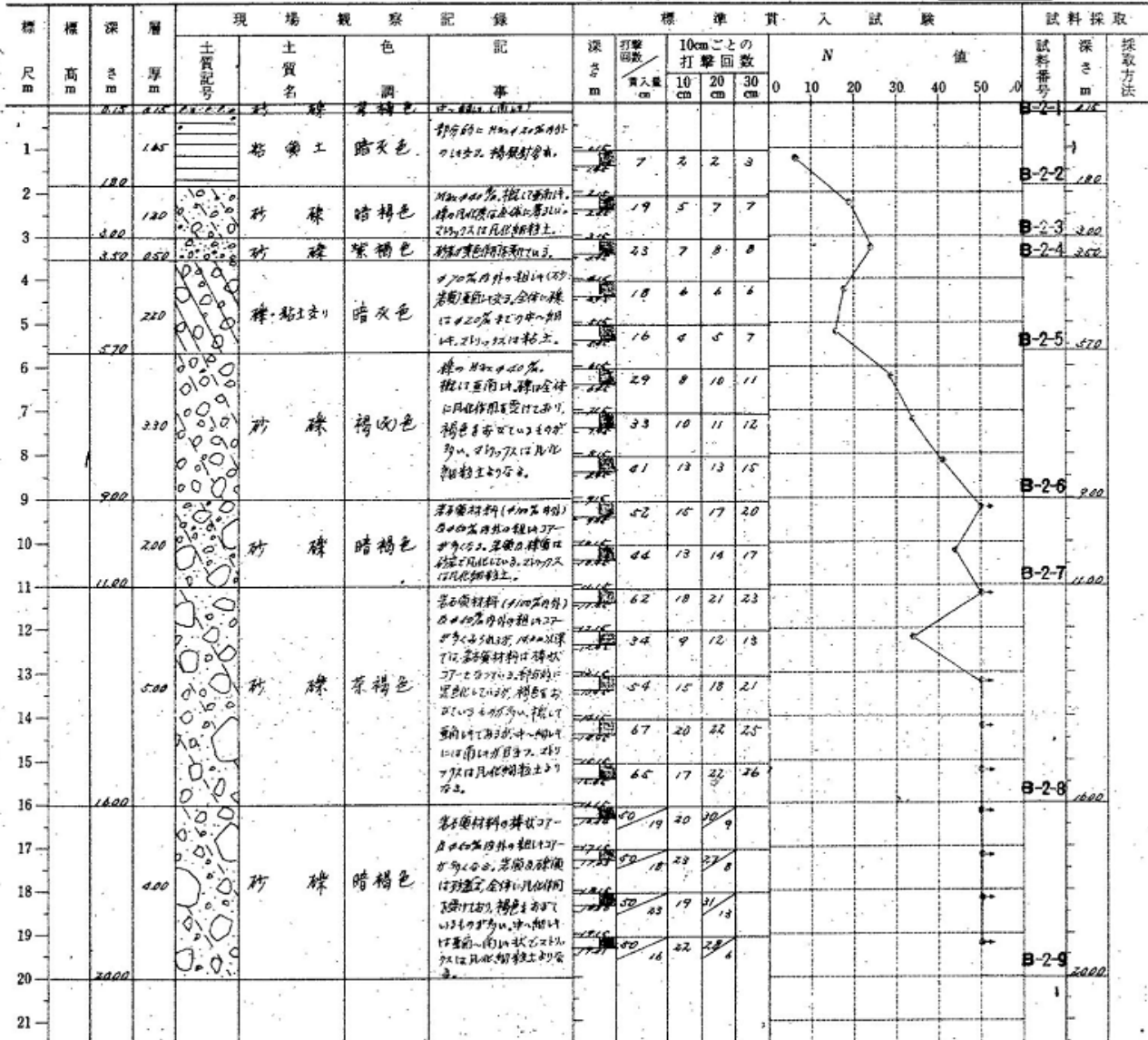
調査名・調査地点 昭和47年度 群馬県立新中学校 調査年度 昭和47年度 調査月日 昭和47年4月20日～昭和47年4月27日
 ボーリング孔 No. 1 孔内水位 1.8 m 調査担当者 〇〇〇〇

深さ m	深さ m	深さ m	深さ m	現場観察記録			標準貫入試験				試料採取			
				土質記号	土質名	色調	深さ m	10cmごとの 打撃回数	N	値	試料番号	深さ m	採取方法	
1	0.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	0.50	7	2	3	B-1-1	0.50		
2	1.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	1.00	24	7	10	B-1-2	1.00		
3	1.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	1.50	18	5	7	B-1-3	1.50		
4	2.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	2.00	19	5	8	B-1-4	2.00		
5	2.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	2.50	6	2	2	B-1-5	2.50		
6	3.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	3.00	17	5	7	B-1-6	3.00		
7	3.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	3.50	21	7	8	B-1-7	3.50		
8	4.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	4.00	22	7	8	B-1-8	4.00		
9	4.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	4.50	35	10	12	B-1-9	4.50		
10	5.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	5.00	20	9	10	B-1-10	5.00		
11	5.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	5.50	27	11	13				
12	6.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	6.00	16	10	12				
13	6.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	6.50	18	10	12				
14	7.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	7.00	21	11	13				
15	7.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	7.50	18	10	12				
16	8.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	8.00	22	11	13				
17	8.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	8.50	17	10	12				
18	9.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	9.00	22	11	13				
19	9.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	9.50	18	10	12				
20	10.00	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	10.00	22	11	13				
21	10.50	0.50	0.50	砂・粘土	暗褐色	砂・粘土	10.50	18	10	12				

土質柱状図

報告用紙

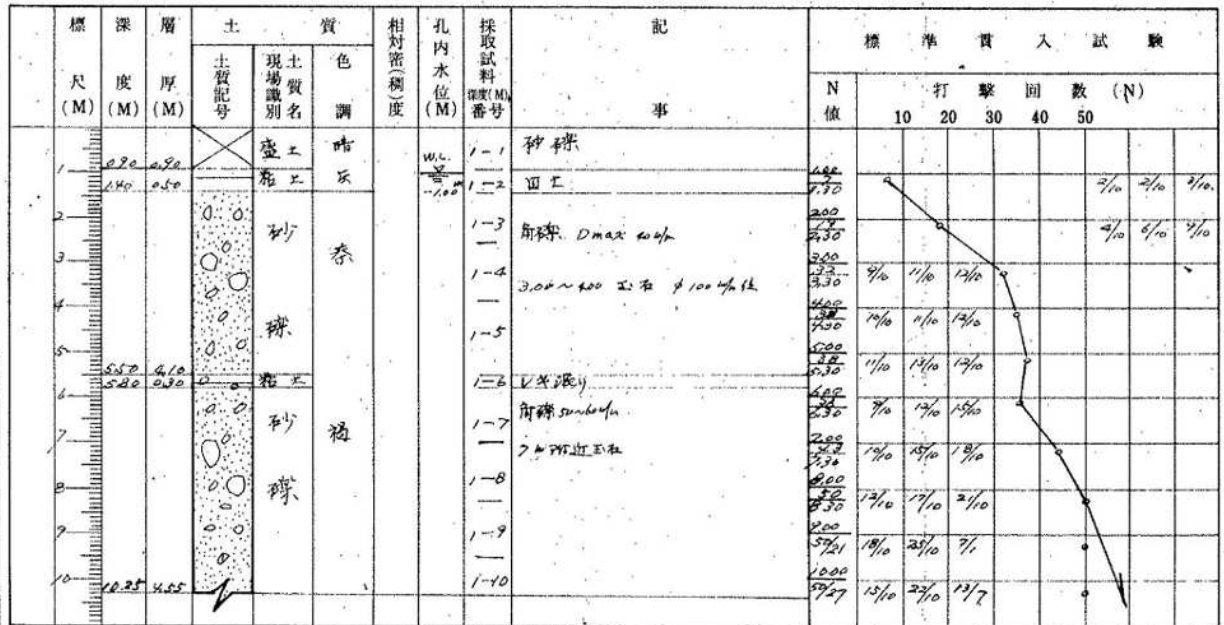
 調査名・調査地点 昭和49年度 静岡中重科中学校
校舎増築工事の地盤調査 静岡市大塚地区

 標高 俣野M.
主河上から地盤 = 2.0M m
調査年月日 昭和49年12月20日～49年12月9日ボーリング孔: No 2孔内水位 2.0 m調査担当者 〇〇〇

土質柱状断面図

調査名	中蔵社中学校地質調査
調査地区	静岡市大井町内
調査地点	No. 1 地盤高

調査員	
調査期間	昭和48年4月28日～5月1日
施工者	



土質柱状断面図

調査名	中蔵社中学校地質調査
調査地区	静岡市大井町内
調査地点	No. 2 地盤高

調査員	
調査期間	昭和48年4月28日～5月1日
施工者	

